FIKO NEWS FLASH

No. 25　MAY　1951

発行所　榮光学園新聞部
横須賀市田浦町船越（TEL田浦 227）

印刷所　内村ライオン堂（TEL 366）
横須賀市大滝町2/11

天気晴朗にして
新校舎初開きの祝典行わる
四月二十一日

去る四月二十一日（土）高等学校々舎初開きの祝典（House warming）が催された。当日朝の中は雲が多かったが、昼近くなって青空が見え出し、上天気のもとに盛大なしかも和やかな House warming の諸行事が予定通り展開された。

これは三月下旬よりすでに高校生の間に色々な計画が立てられてきたもので、最初の予定は四月十四日（土）であったが都合により二十一日に延期されたものである。

午前九時四十五分多数の父兄の方々を迎え、諸先生始め高校生は新校舎の前に集合した。校舎の正面玄関は "FIKO GRAMMAR OR HIGH SCHOOL BUILDING OPENING CEREMONY" と書いた美しい大きな紙で封じられていた。

英語の校歌合唱に続き入場式に入った。最初高等二年の瀬川勲君の手で校長先生の胸に桃色の大きなボタンの花が附けられた。校長先生は続いて一ぱい喜びを述べて、新校舎開きの式を行った。今正面玄関を封じていた紙幕は校長先生の両手であざやかに切り開かれた。この本校の歴史的一瞬となみならぬ校長先生の御努力と、一般の心からの拍手が送られた。

続いて校舎の見学が行われた。校舎の内部は、落ちついたしかも明るい感じがして父兄も生徒も皆満足した心持でたゞ感服していた。あまり感心して事中になった父兄などは便所の中まで熟心に見学されていた。

後体育館で茶話会が行われた。体育館には三百名分近くの席が準備されレコード音楽のメロディーが流れていた。全員着席してから校長先生の挨拶があり続いて生徒父兄代表の祝辞が述べられた。家庭の如き和やかな雰囲気の中に茶話会は行われ合唱等、種々の余興が打込まれた。

茶話会に続いて映画、自由競技が行われた。映画は（色の教育映画で、ニューヨーク市、番組より（アイスター名曲集）原子力、ベル共和国、カーボーイ祭、動物園比べの六つが上映された。自由競技の方では、ビンゴが好評を得、大賑盛で、父兄も生徒も先生も一緒に賞品のカン詰を目当に一生懸命になっていた。その代表的な優勝者としては、熊野先生、姫先生の二人が挙げられるであろう。野球も見物席は一ぱいであったが、その結果は十七対〇で高二の負けであった。テニスの決勝戦も行われたが、の四君、いずれもテニス部の腕ぞろいで、二十八ゲームも行った結果同点引き分けとなった。

太陽もだんゝ西にかたむいて来ると、ぼつぼつ帰る父兄の姿も見られた。

四時半頃、どの競技も終了し、再び全員新校舎の前に集合、日本語校歌斉唱を以ってこのすばらしい House warming の幕を閉じた。

開幕を切り・紙の生
玄関光長
正面校

説論　自然科学えの心構え

研究の犠牲として自分の身体を捧げた、永井隆博士は五月に入ってなくられたことは、まだ我々の印象に新らたなことである。

放射線の研究で有名になった永井隆先生が、その著「この子を残して」に於て、自然科学の研究に対する心構えを次のように、立派に説明しています。

「自然科学の力では我々は道理を完全に掴む事は出来ないが、神の御業を見る事が出来ます。全知全能、全愛の神が宇宙を保ち、幸っているその美しい秩序正しい法則、巧みな機構、そんなものを特に自然科学の探究者は見せてもらう事が出来る。

"その美しい秩序を見たゞけて、神が人間の幸福な生活の為に、どんなにこまやかな愛情をそゝいでいるかがはっきり知れる。

科学者はつゝしんで宇宙の創造主の御業の一部を拝見させていただく気持で、実験すれば彼が実験室で実験しているものと、修道士が修院で祈っているのと同じのだ。謙遜な科学者の実験は、実は祈りであるし……」

これと全く同じように、ロンドン大学の教授であるトムソンは次のように言った。

「自然科学の浅い知識は大自然のすばらしい法則の知識が深ければ深いほど、探究者は神の御前に頭を下げるようになります……」これ等のことは自然科学の研究に対して大きな興味を持っている我等に、大事な教訓を与えてくれる事が出来ます。

"というのは、栄光に於て自然科学に対して深い興味を持っている生徒は驚くほどの数であるにもかゝわらず、多くの者は実験を唯面白い遊びと考へ、又新しく出た機械をオモチャのように取扱っている様な気がします。あるものは原理について別に考えずに、雑誌に出ているようにラジオや他の機械を工作している。そして彼等の興味は理科の非常にせまい、例えば望遠鏡、ラジオ、モーター等の工作に関する興味にすぎません。

多くの者の場合に、少しかけているのはいわゆる発明精神、すなわち本当の大自然の一般の法則その秩序、構造についての広い考へ方であります。新しい機械を見て、あゝその理屈はどんなものか、どの様な法則にもとづいてこれは動くのか、又はその様な法則は物質の構造や生物の性質とどの様な関係があるか、という考え方はもう少し深くならねばなりません。そうしてこそ我等の視野は広くなり、そればかりでなく、心の中に大自然のはかり知れない奥義に対する深い感嘆の念が湧いて来る。そして我等は大自然をこんな立派にお作りになった無限に完全な、全知の神の御前に、益々謙遜して頭を下げるようになります。

しかし、浅い知識は、あるいは遊ぶような気持はトムソンが言ったように反対の方に我等をみちびいて行くのである。

大生物学者であるパストゥールは自分の研究について、生活の最後次のように言った。

「私の長い研究のかげで、私の神に対する信仰は、ブレタニエ人へフランスの信心深い農民のいる地方）の様なゆるぎなきものとなりましたが、しかし研究がもう少しつゞけば、ブレタニエの婦人のような信仰（絶対にたおれないような信仰）となることを確信しています。

科学者の研究や、実験や、又一つの整然たる秩序の深い理解の道にならねばなりません。

他の人間の考へ出した機械を雑誌に書いてあるように、盲目的に工作する代りに、この機械の動き出す理屈や、法則につい て考え、又はその法則や現象は、自然の他の現象とどのように関連されているかを考えるのは、発明精神に富んだ本当の科学者の心がまえ、研究に対する態度であるはずです。

このような態度で自然を研究すれば永井博士のいったように、自然科学の研究は我々にとって非常に重要且な考え方、深い謙遜な人物の、形式への道となることができます。

グランドフィールド大佐来校

Grandfield 大佐が四月十九日（水）に来校された。

大佐は横須賀基地司令官の次の人で、米国で長い間教えていらっしゃったので、特に教育について深く関心を持っていらっしゃり、又熱心なカトリックの信者である。

この日、二時間ばかり視察されたが、大変感心しておられた。

後、一時間位にわたり十人位の先生と教育についての話合が行われた。

本校野球部二敗

五月三日本校野球部対県立横須賀高校の野球試合が行われ、一四対四で敗れた。次いで同月十二日行われた横星学園との対戦にも四対二で敗れた。尚、この二試合は本校グラウンドで行われたもの。

マチス展見学
上野表慶館にて

美術観賞の為、中三以上の希望者八十名は、上野表慶館のマチス展及国立博物館の宗達、光琳の展覧会を見学に行った。マチス展会場には、油絵、壁画、デッサン、装幀、聖堂の模型等があったが出品総数百余点中油絵が二十九点をしめていた。

油絵を見て感ずる事は色の配色の美しい事で、〝オダリスク〟等は赤が他を圧し、〝青い室内〟は濃い青と、緑の色が一しょになり、いかにも涼しげな感を起させた。

この様な流手な色彩に打ってかわり、〝室内の黒衣の婦人〟等は、黒みがかった緑と、黒色との調和により暗い感じが引き立っていた。

又〝窓辺の女〟は上品な明るい色の絵で、紙既の色も落ちついたさびのある赤で、女の人の着物も、淡い色をしている。

すなわちこの絵の中には前のものゝ様に派手な色が見られないのである。

油絵から壁画にうつるが、一番印象に強かったのは、〝十字架への道〟である。

これは墨と毛筆によるもので、キリストが死刑の宣告を受けられてからおせくなりになるまでを十四の絵に分けて、面いたものである。

聖ドミニコ教会の壁画には、この他に〝聖ドミニック〟〝聖母子〟がある。

〝聖母子〟は草の穂様の頭に、マリヤ様がキリストをお抱きになって立っている図で、もう一つの方は、聖ドミニックが長いマントの様なものを着て、左手に書物を持っている所で、いずれも木炭画である。

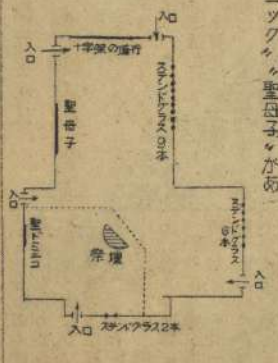
こゝで聖ドミニコ教会の装飾を見てみると、勿論マチスの画いた壁画があるわけであるが、これ等の絵には色がついておらず、マチスの考案によるステンドグラスが窓にはめこまれてある。これを通り絵に当る光によって色をつける事になっている。

このステンドグラスは二つの窓に分れ、二本、六本、九本のようにしきられている。

こちらに来ているのは切紙細工（クワッシュ）であるが、そこについている色も、模様も本物をしのばせた。

マチスの絵を鑑賞し終った後、我々は隣りの国立博物館に行き、宗達、光琳の絵を味わった。

小さい色紙の絵、大きい屏風の絵等をはじめとして、数多くの日本の名画に接し、又マチス展を見学した我々にとって、この日は大いに目の保養となった日であった。



（聖ドミニコ教会平面図）

春の遠足

高一は大島へ

高等一・二学年の遠足は五月十九日（土）に行われた。目的地は大島、コース及び大体の時間は、浦賀駅集合（十八日の夜十時、22時）—東海汽船の発着所（紺屋町、十一時半頃出発）—大島岡田港（五時頃着）—三原山外輪山に向い三合目にて朝食—外輪頂上—三原山噴火口—再び外輪山頂上—下山してキャンプ村にて昼食—大島元村港（二

時頃）—浦賀（六時頃）—善寺電車で八時半頃長所到着。リーダーは例によって天狗さん、校長先生が目附役、チェルマクの中に寝たきりで起きよるの事も出来ないような状態であった。又一方元気のいゝ者は夜の甲板をとびはね歌をうたったりしていた。あたりがまだ暗い中に大島に着き一路三原山へと向った。三原山とその外輪山の間の砂漠は殆ど溶岩によって埋めつくされ、そしてまだ煙を出しているのも実にすばらしい景色であった。この砂漠を馬で行ったり来たりする人々の姿、砂漠を入れたたる頭の上にのせて歩く女の人達の姿、三原山の煙を出している壮観な姿も面白く感じられた。下山してキャンプ村で昼食をした時見たアンコさん（島の娘達）の踊り、それも又大島風景の一特色をなすものである。元村より船に乗り帰りの船中では尚歌へ演芸大会が行われて波の音にも負けず歌いまくった。あやまれた天候にも恵まれ、往きの船中ではよう者も出たが、しかしよい旅行であったと思う。

中学三年生

三年生の遠足は、全校のトップをきって文字通り五月朔の十一日、伊豆長岡—三津—沼津約五里のコースに、健脚ぶりを発揮した。

五時半横須賀出発、三島から修羅を登り、三島駅に到着。リーダーは例によって天狗さん、校長先生が目附役、チェルマクの中に寝たきりで起きよるの事も出来ないような状態であった。又一方元気のいゝ者は夜の甲板をとびはね歌をうたったりしていた。あたりがまだ暗い中に大島に着き一路三原山へと向った。三原山とその外輪山の間の砂漠は殆ど溶岩によって埋めつくされ、そしてまだ煙を出しているのも実にすばらしい景色であった。この砂漠を馬で行ったり来たりする人々の姿、砂漠を入れたたる頭の上にのせて歩く女の人達の姿、三原山の煙を出している壮観な姿も面白く感じられた。下山してキャンプ村で昼食をした時見たアンコさん（島の娘達）の踊り、それも又大島風景の一特色をなすものである。元村より船に乗り帰りの船中では尚歌へ演芸大会が行われて波の音にも負けず歌いまくった。あやまれた天候にも恵まれ、往きの船中ではよう者も出たが、しかしよい旅行であったと思う。

中学二年生

中学二年の遠足は熱海↓十国峠↓湯河原のコースで五月十五日に行われた。

五時三十分横須賀を出発、七時四十分熱海に到着し、A・B・C・D組の順で再出発。白水先生の少年王者のような叫び声へ少しほめすぎたかな）と殿村先生のシャモの首にしめたような声に追いたてられ、やっと頂上にたどり着いた。

そこで待ちに待った弁当を開き、晴った空と一面のスロープを見ながら食べた。

しばらくして雨が降って来たが、附近の神社で雨宿りしている中に雨も止み、そこで各組毎に宝眞を撮り、例の余興大会が開かれた。各先生の御得意の御声に生徒一同は感心したり笑ったりの大さわぎだった。

やがてすべる山道を湯河原に向って出発した。駅でウルフ先生の色々な注意があり、四時四十分の電車で解散した。

中学一年生

五月十五日（火）中学一年の遠足がおこなわれた。七時四十五分横須賀駅に集合、予定より少し遅れ、横須賀駅をバスで出発、久里浜ペリー記念碑へとむかった。ペリー記念碑に着き、そこで約五・六分休憩し再びバスに乗り、三崎にむかった。

三崎は漁港だけあって魚市場には「さめ」「かじき」その他種々の魚が、並べてあった。

そこより北原白秋の詩と燈台で有名な城ヶ島に渡った。一周燈台を見学し、船で油壺へ行きそこで昼食となった。

油壺の水族館見学の後余興が行われた。

先生側より、内田先生のソプラノ「恋塚の月」熊野先生の体操のお手本、シュトルテ先生の「春が来た」の歌、吉野先生のハーモニカ、ウエーバ先生の「はげとポマードの関係」、「鼻と香水の関係」について」など、生徒側からは各グラス代表の歌ハーモニカ、詰などで、一同時のたつのも忘れた。余興もおえ、バスで葉山逗子を通って帰途についた。

各部近況

●図書文芸部

三月末部員再編成が行われ、その後新たな用架式による図書貸出しのための室内や図書の整理を行った。新学期から今まであまり活発に動かなかった色々な係も新しく活動を始めている。図書関係の係は、統計調査、修理、宣伝、受入、室内整備等、それ以外の係は、カレント・トピックス、盟新聞、レコードコンサート、展示等である。尚今まで栄光スクラップとして発行されていた新聞紙の切抜編集は、カレント・トピックスと改名された。

●体操部

過日部員募集を行った所、大変な人気で、一層その陣容を充実して来た体操部は、現在六月の学芸会に備えて、マットワークに重点をおき、毎週火曜と土曜の放課後猛練習を行っている。今後は備え付の器具を出来る限り使用し、出来れば年行事もやり、又よその見学にも出かけたいとの事。

●合唱部

二年生以上の有志の募集が今行われており、一年生部員は学校から指名された。現在六月の学芸会のため、合唱の練習を毎月曜行っている。

今年度は、宗教音楽の合唱をもっと上達させる事とともに、レコードコンサートその他が計画されている。

●書道部

現在募集が行われているが、ざっと練習を続けて、クリスマスの展覧会に優秀作品を展示する。

又、市とか県の教育課主催の展覧会にも栄光の代表として出品する。

訂正

先月号の各部活動の記事中、学校演劇部とあるのは、学校劇部の誤り。

部員募集

今学年度最初の部員募集が始った。

各自色とりどりのポスター宣伝に校内の掲示板は人目をひいている。

まだ一部の部だけたがそのうちにだん〳〵ふえてくるだろう。

今回は特に新一年生の研究心をそそる為に各部は入部対象を一年においている。

又、〝栄光〟編集部ではこれから一年生の入部の便宜をはかる為〝校内各部一覧表〟〝栄光〟第五号〟を掲示し入部の手助けをしている。

現在募集中の部は、排球部、絵画部、合唱部、書道部、気象部、体操部等で、新聞部、演劇部等は締切り、各自決定したようである。

映画鑑賞

去る四月二十八日（土）全校生徒六百余名は、横須賀松興館で科学映画「月世界征服」を鑑賞した。

この映画は、アメリカ合衆国イーグル・ライオン社で作られた総天然色映画で、内容は月に行く為に、苦心をし、その末到着するという簡単な筋ではあるが、天然色であったゝめか、美しく印象に残った。

約二時間半の長時間であったが、皆熱心に画面を見つめていた。

その他、マッカーサー元帥帰国特集、及びニュース等もあった。

十時から一時半まで楽しい土曜日を過し、解散した。

図書室便り

三月末に部員の再編成を行った図書文芸部ではその後新学期に備えて図書と室内の整理を行い、四月十六日から新たな用架式でその活動が始められた。

このやり方は今までの用架式に比べて閲覧者にすっと重点がおかれているが、係りの部員にとっては仕事が前より復雑になり、南室と局時に一時に閲覧者が押し寄せるので、その混雑の整理は非常に大変であるそうだ。

このように閲覧者本位にした裏には部員の苦労がかくされているのである。

今月十七日迄の今学期の閲覧状態は中三が延一三九名で最も多く中一が一一一名、中二がその約半数、高校生は一二年合せて三三名の極く僅かである。種類別には総記へ主に中学生全集、銀の鈴文庫）が総計三四六の約三分の一を占め、次いで文学系統のもの、自然科学、哲学とつゞいている。

尚新高校々舎二階の高二A教室前に新たに分室が設けられ、本は割合少いが、かなり好評である。

新先生就任

吉田可行先生

この前お入りになった先生方に少しおくれてお入りになった吉田先生にお聞きしてみた。

出身地は栃木県、高一高二の数学の先生で、第一印象は礼儀の正しいこと、研究心のおうせいであることなど感じていられた。

「趣味はしとお聞きすると、「勉強は好きですけど趣味とは云わないでしょうからありませんね」というお話。

お耳のせいか大分耳がとおいようだったが、大変お元気で、庭球等も生徒と一しょにやっていらっしゃいました。

貝塚見学

去年二十七日と今月四日の放課後の二回に分れて、三年生は当直先生に引率され、横穴古墳と貝塚の見学を行った。

先ず浦郷のトンネルを過ぎてから直ぐ左側のやゝ高い所にある横穴古墳を見学した。この横穴古墳は古墳時代のもので、この程度のものは、本校裏山にも六つあるが、今では見られない。しかし三浦半島内では数多くあるということである。

次に能永寺へ時宗の裏山の能永寺貝塚に行った。この貝塚は縄文式時代後期のものである。石斧や鹿、釣針などが出るそうであるが、掘らしくくれないのは残念であった。

皆、思い思いに見学した後、そこで発掘されて周辺保管物となっているものを見せてもらってから解散した。

副校長について

去る四月九日、副校長となられたヘルヴェク先生はその理由について次の様にのべられた。

「栄光学園に副校長の必要となった理由は、栄光学園も創立以来五年目になり、学校の生徒も非常に多くなったので校長先生一人では、忙がしすぎるので、そのお手伝をする為に、新しく私がなりました。

これからしっかり副校長の役目を果しますし」

聖母マリアの月

五月は聖母マリアの月で学校に於ては毎朝八時より十分間ほど祈りをさゝげている。

五月三日は我が国の憲法記念日で カトリックではイエス・キリストの御昇天記念する大祝日である。又四日は聖寿子供の日で休校、六日は日曜日となってこゝ一週間は休日が続いたわけだ。十三日は聖霊降臨の大祝日、二十日は三位一体の祝日で 博多賀に於て 福賀カトリック教会主催のもとに聖体行列が行われた。